



発行人 横山泰賢 編集担当 舘寺規弘
発行所 SOTO禅インターナショナル事務局
〒981-1223 宮城県名取市下余田字飯塚563 圓満寺内
TEL. 022-382-3450 FAX. 022-382-0681
Email: kikitatedera@gmail.com
URL: <http://www.soto-zen.net/>
郵便振替 00100-6-611195 SOTO禅インターナショナル

2024年
Vol.62

特集 追悼 駒形宗彦ハワイ国際布教総監

特集 両大本山ワークショップ・講演会「境目のない世界～世界中に渡る禅～」



S Z I 定例総会・講演会 2024年3月4日 於：檀信徒会館

巻 頭

ご 挨拶

曹洞宗宗務庁 教化部長 蔵山大頭



SOTO禅インターナショナル会員の皆様におかれましては、平素より宗門の国際布教活動にご協力を賜りまして感謝申し上げます。

この度、令和6年10月に曹洞宗教化部長を拝命いたしました、蔵山大頭でございます。曹洞禅の根幹である布教教化を担うその重責に、身の引き締まる思いでございますが、微力を尽くしてまいる所存でございます。何卒ご教導とご法愛を賜りますよう伏してお願い申し上げます。

また、昨年4月に開催いたしました、曹洞宗国際センター主催「世界曹洞禅交流会 Soto Zen World Fellowship」では、貴団体からのご協力もあり、盛会裏に終えることができました。この場をお借りし、改めまして宗門国際布教へのご理解とご協力に対しまして心より御礼を申し上げます。

さて、国際布教の歴史は、1903年にハワイ、ペルーの日系移民を対象として始まり、その後、北アメリカ、ヨーロッパへと広がりました。先人たちは幾多の困難を乗り越えながらも、海外開教に情熱を注ぎ続け、一仏両祖のみ教えを現地の人々に浸透させて参りました。令和6年12月1日現在、世界各地で134名の国際布教師が活躍し、67か寺の海外特別寺院が登録されるまでに拡大いたしましたのも、SOTO禅イン

ターナショナル会員各位のご尽力によるものと敬意を表する次第であります。一方で、昨今の国際布教の現場では、教師資格取得を目指す者の僧堂安居に係る問題や国際布教師の高齢化に伴う海外特別寺院の後継者問題等、諸課題が山積しております。

これらの解決にあたっては、国際布教総監部ごとに協議を進め、それぞれの地域に合った解決の方途を模索しておりますが、海外布教の経験豊かな皆様のお力添えなくしては、解決できないものと思料するところです。今後の国際布教の展開において、それらの諸課題を皆様方と共に考え、より良き施策の実現を目指して参りたく存じます。

そして、令和7年度には、第10回北アメリカ・ハワイ檀信徒大会が開催される予定です。本大会は、日系移民の歴史と深く関係しており、日系移民が北アメリカやハワイに渡り、その地で曹洞宗のみ教えを受け入れ、地域社会に貢献してきたことを再確認する貴重な機会となります。今一度国際布教の歴史を振り返り、現地の国際布教師・宗侶と共に一致団結して曹洞宗の敷衍に尽力して参ります。

国際布教の一層の発展を祈念いたしますとともに、各位より更なるご協力とご法愛をお願い申し上げ、拙文を寄せてご挨拶とさせていただきます。

合掌

… SZI 会長挨拶 …

ご挨拶

SZI 会長 よこ やま たい けん 横山 泰賢 (広島県禅昌寺住職)

新春を寿ぎ、皆様のご多幸とご健勝を心よりお祈りいたします。また、平素より賜っております御法愛に厚く御礼申し上げます。

昨年は、長年に亘りハワイ国際布教に御貢献された前ハワイ国際布教総監駒形宗彦老師がご遷化されました。一昨年にはハワイ国際布教120周年を迎え、慶讃行事を恙なく勤められてのご遷化には、駒形老師の責任感と次世代に託された深い想いを感じざるを得ません。ハワイに限らず、今後の宗門国際布教をどのように進めて行くべきなのか今私たちに問われているように思います。私たち各々が経験した国際布教は全体の一部に過ぎず、それだけを拠り所として国内外を看るのではなく、フラットな目線で語り合い、宗門に提言して行けるような場も必要ではないかと感じる今日この頃です。

2024年のSZIの活動におきましては、計画しておりました寺院子弟研修が諸事情により中止となりましたが、それ以外の事業におきましてはほぼ予定通り終えることができました。3月のイタリア・普伝寺40周年、9月のブラジル・禅光寺50周年、そして10月のアメリカ・桑港寺90周年の慶讃行事には、それぞれSZIご縁の皆様が随喜参列され、慶讃の祝意と先達への感謝を表されました。またその皆様に託しました当会よりの祝意を、それぞれの寺院に届けてくださいました。各地での慶讃行事の様子を伺うと、曹洞禅が世界各地に根付いているのだと改めて実感するものであります。

9月6・7日の2日間には、両大本山ワークショップ・仏教講演会を開催し、千葉県・長泉寺副住職のフェルナンデス浄賢師に「境目のない世界 ～世界中に渡る禅～」と題して、曹洞宗の国際布教の歴史と、自身の経験を安居者の皆様に講演していただきまし

た。沢山の質問や感想をいただき、有意義なワークショップとなりました。その他、法衣支援活動等様々な活動の報告がありますので、別掲をご参照頂ければと存じます。ご支援ご協力いただきました皆様には、あらためて感謝申し上げる次第であります。

さて話は変わりますが、観世流能楽を大成させたことで知られる世阿弥が、実は晩年宗門の僧侶であったことをご存じでしょうか。世阿弥は十五世紀初頭、奈良県の補巖寺に度々身を寄せており、丁度そのころ補巖寺二世の竹窓智巖や太容梵清という宗門の高僧が、熱心に正法眼蔵の研究と曹洞禅の実践を行っていたようです。永平寺五十世玄透即中禪師の代に本山版正法眼蔵を編成・開版される際には、太容梵清の書写本を参考にされたと記録に残っているほどであります。そのような時代に補巖寺で出家得度された世阿弥が残した「風姿花伝」や「花鏡」には禅仏教の専門用語も多く使われており、道元禪師様の御教えが大きな影響を与えていたことは確かでありましょう。そして、それらの書物は秘伝として一部の流派のみに伝えられましたが、明治になって広く世間に紹介されました。また、それら秘伝の書は世界各国の言語に翻訳され、教育論や人生論を含む日本の美学として世界中から高い評価を得ております。その世阿弥が残した秘伝の書「花鏡」には、今でも私たちの身近にある教えとして「初心わするべからず」というお示しがあります。

世阿弥は、これを三ヶ条の口伝として

- ・是非の初心わするべからず
- ・時々の初心わするべからず
- ・老後の初心わするべからず

と伝えております。

今後も、初心を忘れることなく励んで参りたいと存じます。

合掌

CONTENTS

▶ 巻 頭	ご挨拶	曹洞宗宗務庁 教化部長	藏山 大顕	1
▶ SZI 会長挨拶		SZI 会長	横山 泰賢	2
▶ 海外レポート	① イタリア・正法山普伝寺 開創40周年式典	SZI 事務局員	堀口 智玄	3
	② アメリカ・桑港寺 開創90周年慶讃法要	SZI 事務局長	館寺 規弘	4
	③ ブラジル・イピラス禅光寺 開創50周年	北海道廣徳寺住職	高橋 正英	6
▶ 追悼	駒形宗彦・前ハワイ国際布教総監			
	駒形宗彦老師を偲ぶ	SZI 相談役	田宮 隆児	7
	駒形先生との12年間は教化の源泉	SZI 相談役	飯島 尚之	8
	駒形先生一家との思い出	群馬県宗泉寺住職	柴山 輝行	8
	追悼 駒形宗彦総監との思い出	静岡県萬松院住職	吉田 宏得	8
▶ 特 集	両大本山ワークショップ・講演会抄録			
	境界のない世界～世界中に渡る禅～	千葉県長泉寺副住職	フェルナンデス 浄賢	9
	両大本山ワークショップアンケート報告			12
▶ ご 報 告	ハワイ仏教連盟よりお礼状が届きました			13
▶ SZI express	会費納入者・賛助金納入者名簿			14
▶ 世界曹洞禅交流会に参加しました				15
▶ SOTO 禅インターナショナル定例総会・講演会のお知らせ／動静報告				16

… 海外レポート① …

イタリア・正法山普伝寺 開創40周年式典

S Z I 事務局員 ^{ほり}堀 ^{ぐち}口 ^ち智 ^{げん}玄（群馬県神守寺住職）

令和6年3月10日、イタリア正法山普伝寺において、開創40周年式典がおこなわれました。この式典では、開山報恩諷経、大般若祈祷法要、檀信徒回向がおこなわれました。

開山報恩諷経では、大本山永平寺副監院・原田光則老師が導師をお勤めになり、開山である成田秀雄老師への報恩供養がおこなわれ、不老閣猊下のご祝辞を原田老師が代読されました。大般若祈祷法要では、堂頭のアニョーリ妙光師が導師を勤め、令和5年に群馬県宗務所第13教区から寄贈された大般若経600巻を転読し、正法興隆、山門繁栄、世界平和の祈願がされました。檀信徒回向は、東堂グアレスキー泰天師が導師を勤められました。法堂が手狭なため講堂でおこなわれた式典には、大本山永平寺、妙厳寺御一行を始めとし、総勢60名の僧侶が随喜し、更にはイタリア仏教連合、カトリック教会の教区司教などの来賓を含め約300名の関係者が国内外から集まり式典に参加されました。



大般若祈祷

祀りされますことは、誠にありがたく恐悦至極に存じます。諦法禪師様は、修行者に対してもご自身に対しても大変厳しく、そして大変優しいお人柄でありました。特に、人と人との争いを好まず、自然災害には己の無力を嘆かれ、常に世界が平和である事を願い、常に皆が幸せであることを望まれ佛道精進しておられました。その思いをこの地より広めて頂けますよう冀い世界中が平穏無事でありますことを御祈念申し上げます。」と述べられました。普伝寺は平成28年に福山諦法禪師によって法幢開闢本山直末寺院となっています。

また、前日の夜には、普伝寺の和太鼓グループ「普伝太鼓」のコンサートがパルマ市内のホールでおこなわれ、800名程の観客が訪れました。

現在8名の宗侶が在籍している普伝寺は、グアレスキー泰天師が師事した弟子丸泰仙老師の示寂後に、弟子丸老師の兄弟弟子である成田秀雄老師を開山に拝請し、フィデンツァ郊外の空き農家をお寺としたことが始まりとなっています。「フィデンツァ→フデンツァ→普伝寺」お寺の名前は成田老師が、地名からつけたそうです。「普く伝える」お寺の名の通り、普伝寺は宗教を問わず、どんな人に



福山禪師墓碑開眼

また、式典前日の9日には、普伝寺に新たに建立された大本山永平寺七十九世福山諦法禪師様の墓碑に、妙厳寺住職福山憲隆老師ご導師のもと納骨点眼供養がお勤めされました。福山憲隆老師の祝辞では、「本師である福山諦法禪師様がこの欧州イタリアの地にお



前晩の普伝太鼓の演奏



慶讃法要



法要後の記念撮影

も親しく坐禅を中心とした曹洞宗の教えを伝えてきました。中には弟子となり仏教徒となった方、もしくはより敬虔なカトリック教徒となった方もいることでしょう。普伝寺は、他の宗教を否定するのではなく、それぞれが正しい宗教信仰してほしいという思いで布教をしてきました。その姿勢は、大勢の方から受け入れられ、今では地元自治体やカトリック教会との親密な交流を持つことができます。

40周年を迎え、ようやく念願の本堂建設が始まりました。法要をおこなう法堂は建物内にありますが、日本人の感覚だと本堂がないお寺というのは不思議に思われるかもしれません。普伝寺もそうですが、ヨーロッパの大多数の寺院、禅センターには独立した本堂がありません。これは単純に資金不足が理由にあげられるかもしれませんが、それ以上に、根本道場である坐禅堂を整え、行住坐臥の修

行に打ち込める環境を築き上げることを第一としてきたからではないかと思います。こうした様子をみていると、宗門の最先端をいっているようでもあるし、逆に仏教や曹洞宗の創成期を想像させられます。イタリアの地で一から寺院を築き上げることはとても大変なことだと思いますが、普伝寺ではまず日々の行持を大切に、そして人との関わりを大切にしてきたからこそ40年を迎えることができたのだと思います。この40周年式典には普伝寺の功績が現れていて、改めて普伝寺の偉大さを感じました。

これから50年、100年を迎えるには、世代交代をしながらのあゆみとなり、これもまた大変なことですが、どうかこれからもあゆみを進めて欲しいところです。私も2年間国際布教師として普伝寺でお世話になった身として、これからも何かできることがあれば協力させていただきたいと思います。

合掌

… 海外レポート② …

アメリカ・桑港寺 開創90周年慶讃法要

S Z I 事務局長 たて でら き こう 舘 寺 規 弘 (宮城県圓滿寺住職)

2024年10月19・20日の2日間に渡り、アメリカのサンフランシスコ市にある桑港寺において、開創90周年の慶讃法要、併せて現国際布教主任の黒瀧康之師の初会結制安居が修行されました。この勝縁に、多くの桑港寺メンバー様方や関係者の皆様、米国内や日本から多くの宗侶や有縁の方々が随喜参列されました。S Z Iからは副会長であり桑港寺先々住の南原一貫師、先住の私舘寺、そして会計の伊藤祐司師が随喜いたしました。お陰様で私は8年ぶりにサンフランシスコの地に足を運ばせていただきました。

慶讃法要が行われる前日19日には、結制安居の諸行事が行われました。首座を務めるサンフランシスコ禅センター・発心寺のミグリオリ祖山師の入寺式、続いての配

役本則行茶では西堂のゴッドウィン建仁曹洞宗国際センター所長が『達磨廓然』について提唱をされました。



首座・ミグリオリ祖山師



檀信徒供養にて行道

翌20日は慶讃法要に先立って首座法戦式が修行され、英語による首座挙則や法問が立派に勤められました。日本国内における伝統的法式と、いわゆるアメリカナイズされた法式をうまく融合させた法戦式に、黒瀧師や首座和尚様はじめ多くの皆様が、入念に準備を重ねて来られたのだらうと感じながら随喜いたしました。



檀信徒供養

その後、黒瀧師導師のもと檀信徒供養が修行されました。私も20~30代の頃の自分を育てて下さった、今は亡きメンバーの皆様方、そして全てのご先祖様方のために感謝を込めて読経焼香をさせていただきました。

最後に、北アメリカ国際布教総監・秋葉玄吾老師を導師に開創90周年慶讃法要が大般若祈祷にて修行されました。厳かな中にも激しさをもった大般若祈祷の法要に、参列の皆様も真剣な眼差しを向けられていました。

記念撮影ののち、会場を近くの北加日本文化コミュニティセンターのホールに移して記念昼餐会が催されまし



梅花講と一緒に奉詠

た。法要が終わるまでは、緊張や忙しさの中でなかなか話もままならずにいた皆様も、和やかに歓談しながら祝宴を楽しんでいました。私も久しぶりに会う懐かしい方々との再会を楽しむことが出来、嬉しい限りでした。

この度は首座和尚様がサンフランシスコ禅センター・発心寺で常住修行されていることもあってか、発心寺をはじめ関連の禅センターからも沢山の宗侶、また関係のある皆様が随喜参列されていたのがとても印象に残りました。黒瀧康之師には、日本の心や文化の拠り所としての日系寺院の側面と、アメリカの曹洞宗として2番目に長い歴史を持つ寺院としての役割を果たしていこうとされている気概を感じることが出来ました。黒瀧師の今後のご活躍に大いに期待したいと思います。また私も、桑港寺に育てていただいた一人として、陰ながら応援を続けてまいりたいと思います。

合掌

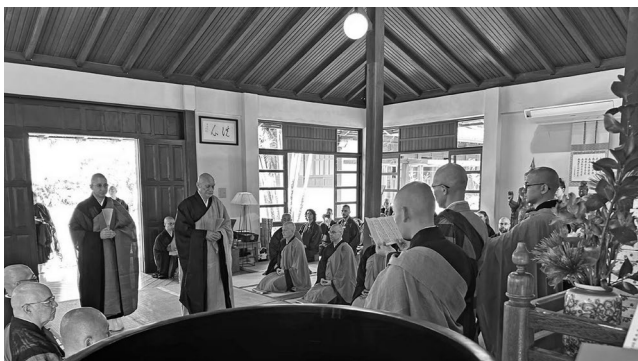


開創90周年慶讃大般若法要

… 海外レポート③ …

ブラジル・イビラス禅光寺 開創50周年

たか はし しょう えい
高 橋 正 英 (北海道廣徳寺住職)



退董式の様子

ブラジル白雲山禅光寺50周年記念法要が、2024年9月6日(金)から8日(日)までの3日間に亘り修行されました。

禅光寺はビッチ大樹老師によって1974年に開創、伽藍整備がなされ今年で50周年を迎えます。その記念に禅光寺の山麓には今回、35メートルの西欧初の大仏が建立され、隣接するように大仏寺が新たに開かれました。

この度の法要では、開山丹羽廉芳禅師33回忌法要(導師 静岡県宗乗寺東堂 伊藤正見老師)、50周年記念慶讃法要(導師 大本山永平寺副監院 西村眞典老師)、聖霊山大仏寺落慶式(導師 静岡県山王寺住職 青山嶺雲老師)が営まれました。また50年の歳月をかけて禅光寺を護り、ブラジルに禅風を高揚してきた禅光寺三世、大樹老師の退董式と四世ビッチ研道師の晋山結制法要も併修されました。

この大法要には、南米を中心にアメリカやイタリア等各国から僧侶が参集した他、日本からは西堂老師として拝請された青山嶺雲老師を始め、大本山永平寺より西村眞典副監院が御専使として、加藤孝正老師(静岡県永明寺住職)が総都管として、また研道師の同安居ら大勢の僧侶によって法要が懇懇に修行されました。



晋山式の様子

特に青山老師は大樹老師の修行時代を役寮として支え、加藤老師も帰国してからの大樹老師を物心両面にわたり支援してきた方々だったからこそ、法要の空気は緊張に満ちたものでありながら同時にとても暖かいものがありました。



ビッチ大樹老師とビッチ研道師

退董式では、大樹老師は禅光寺を開創した当時の古い大衣で入堂し、足元も素足のままでした。法語では、「私が山を開き堂宇を建てたときには質素なもので、身に着けているものも法衣一枚、素足にサンダルの姿でした。」と始まり、随喜した弟子や参禅者たち、四世として禅光寺を継いでいく研道師らは目に涙を浮かべ、住職を退く大樹老師を、まるで全員が家族のように一体となり、労い讃えていた様子が印象的でした。

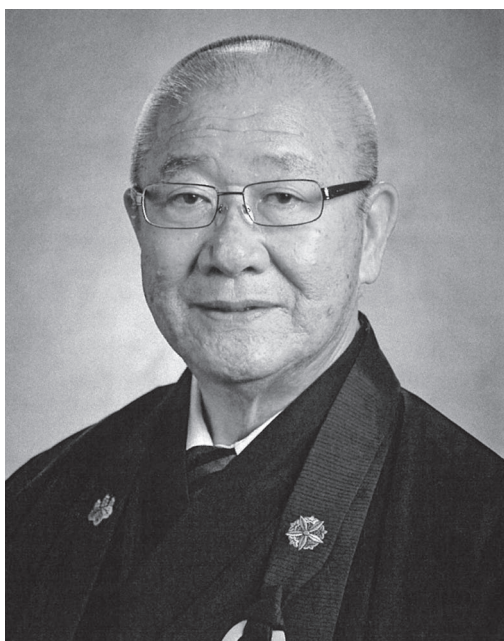
南米禅は今、次の世代へと受け継がれていくとても大切な時期にあるのだということを象徴する大切な法要でありました。

追伸：SZIではこの慶事に際し、随喜されたSZI監事・加藤孝正師に託して会よりの祝賀をお届けさせていただきました。



晋山式の様子

追悼 駒形宗彦・前ハワイ国際布教総監



Rev. Shugen Komagata

駒形宗彦老師を偲ぶ

S Z I 相談役 た みや りゅう じ 田 宮 隆 児 (新潟県雲洞庵住職)

去る10月14日、曹洞宗両大本山ハワイ別院正法寺において駒形宗彦前ハワイ国際布教総監の本葬儀が大本山總持寺前監院・乙川暎元老師秉炬のもと執り行われました。地元ハワイはもちろん、アメリカ本土、そして日本から大勢の方々が、駒形老師に感謝と敬意を捧げるため集まり、お焼香をしました。老師は2008年より今年の4月までハワイ国際布教総監を務められ、50年以上に渡りハワイにおいてまさに根を張っての布教活動に取り組んで来られました。

初めて駒形老師にお会いしたのは、私がまだ9歳か10歳の頃だったと記憶しています。当時、私の父はアイエア太平寺の布教師を務めており、失礼ながら、私から見ただの僧侶もそれほど若くはないイメージでした。そんな中でお会いした駒形老師はとても新鮮に映り、時々父に連れていかれた別院でお話しをした覚えがあります。それから十数年の時が経ち1988年に私はコナ大福寺の布教師としてハワイに渡りました。大福寺の8世でもありました駒形老師からは様々なアドバイスをいただいたばかりでなく、年に数回会議のためにホノルルを訪れる度に空港へ迎えにきてくださいました。別院へ向かう道中ではドライブインなどに寄り、老師とコーヒーを飲み、ロコモコやパンケーキなどの朝食を御馳走になるのが常でした。私と妻がハワイに滞在しておりました16年の間、駒形老師と奥様のフェイさんには言葉に言い尽くせぬほどお世話になりました。そして老師ご夫妻がお世話されたのは私達夫婦だけではなく、老師がお努めされてこられた50数年の間に会われた布教師の皆様とご家族すべてであったと思います。

老師は常々「私は難しい話はしない。人と向かい合い、同じ時間を過ごし、お茶を飲むのが自分の役目なんだ。」と、おっしゃっていました。そして本当に多くの方々と沢山の時間を過ごされました。観音様を大切にされておられた駒形老師は、まさに「自未得度先度他」、菩薩の道を歩まれた老師でありました。

駒形老師の本葬の前日には、老師のお弟子さんでもあります駒形宗二師へ、深川典雄教化部長老師より辞令が伝達され、宗二師は第八代ハワイ国際布教総監に就任いたしました。宗二師には、お師僧様の志を引継ぎながらもハワイ布教の新たな時代を切り開いていただきたく、そのご活躍に期待しております。 合掌



本葬前日には駒形宗二新総監の就任式が行われました

駒形先生との12年間は教化の源泉

S Z I 相談役 ^{いい じま しょう し}
飯 島 尚 之 (東京都宗清寺住職)

私がハワイ別院正法寺に赴任したのは、40年以上も前の1982年から1994年の12年間。当時、駒形先生はホノルルから車で1時間程度西あるワヒアワ龍仙寺の主任開教師(当時の呼称)でした。

日本とは大きく違うハワイのお寺、日系社会での存在意義やメンバー(檀信徒)との接し方を含め異国での生活全般を家族のように接していただき、教えて頂きました。1期4年の予定を3期12年という期間を勤める事ができたのも、駒形先生とそこご家族のお蔭かと思えます。

振り返ると、共に携わった教化事業は数多くありました。なかでも1991年当時、人集めが大変であったハワイ仏教連盟「花まつり」をNBCコンサートホールで1200名満席にした企画や1992年8月末にハワイ東京梅花講創立35周年記念奉詠ハワイ大会をハワイ別院で開催、ハワイ全島と日本各地からご参加いただきました。

さらに私が帰国後の2003年「曹洞宗ハワイ開教100年」記念行事を含め多くの貴重な経験をさせていただいた事は、いまでも私の教化活動の源泉となっております。

曹洞宗のハワイ布教は120年を超え、このたび二男の駒形宗二師が新しい世代の総監として就任したことは、大いに期待されます。

日本においては寺院の存続が危ぶまれると言われる時代、開教という何処かに忘れかけた布教の原点を駒形先生との思い出をたぐりよせる中で新たに呼び覚ましてくれました。(先生とはハワイ僧侶の現地呼称)

私たちもやがて誰かの思い出の中に生きる。

合掌



2011年頃 東京グランドホテルにて

右から 駒形宗彦 (ハワイ総監) 三好晃一 (南アメリカ総監)
吉田宏得 (ハワイ別院国際布教師) 左側筆者 (役職は当時)

駒形先生一家との思い出

^{しば やま き ぎょう}
柴 山 輝 行 (群馬県宗泉寺住職)

私は今から47年前、開教師としてハワイの正法寺に赴任いたしました。当時駒形先生はコナ大福寺の住職をされており、事あるごとに正法寺の大山総監のところに家族で来られ、奥様のフェイさん、長男の大宗さん、次男の宗二さんとも親しくして頂きました。

私は5年半の開教を終え帰国いたしましたが、2013年のハワイ開教110周年記念行事の際に久々に再会し、36年ぶりの思い出を語り合うことができました。祝賀パーティーではフェイさんや宗二さん率いる太鼓グループによる演奏は素晴らしく、大変驚かされました。

2018年に宗泉寺の檀信徒18人を率いて正法寺に参拝した折には、総監として檀信徒の前で私の開教師時代の懐かしいエピソード

を話してくださいました。奥様のフェイさんにも再会することができ、お忙しい中でも大歓迎してくれたお二人がもういないのは大変寂しい限りです。きっと来世で夫婦仲良く、昔話に花を咲かせているのではないかと想像します。

心よりご冥福をお祈りいたします。

合掌



2018年 両大本山ハワイ別院正法寺にて駒形総監と
(前列中央筆者)

追悼 駒形宗彦総監との思い出

^{よし だ こう とく}
吉 田 宏 得 (静岡県萬松院住職)

駒形総監老師の遷化に際して、哀悼の誠を捧げ品位の増崇を祈念申し上げます。

老師とのご縁は、開教師(当時の呼称)としてヒロ大正寺へ赴任した頃、力強い握手で私を温かく迎え入れて下さった30年程前に遡ります。

約6年を過ぎ、別院正法寺へ総監部の任を預かり転任となり、更に親しく10年余りお世話になりました。特に、ハワイ米本土信徒大会、道元禪師降誕800年や道元禪師七百五十回大遠忌予修法要、ハワイ開教100周年慶讃法要等々の大きな行事が続きました。

ハワイ管区の僧侶全員が揃い準備に関わる事が適わない為に、総監部の駒形老師と私が主になってそれらの準備や運営と実行を担わせざるを得ない状況でした。打合せと諸準備は、別院の平常業務後に勤めました。当時は今とは違いEメールやLINE等もなく、日本や米本土との連絡は時差の関係で深夜から早朝に関わる事が多く、時折事務所ソファで朝まで過ごす事もありました。その他に管区内や佛連の行事を老師と共に関わりました。「僧侶の自己満足ではなく信徒の為の布教」として多くの事を学び、且つハワイの慣習等に親しんでゆく指導を頂きました。

信徒さん達からは、「駒形先生が上半身・私が下半身のコンビネーションが良いね。」と称賛される事が楽しみだったあの頃が、大変有難い思い出です。

本年3月に訪問した折、療養中でも力強い握手で迎えてくれた駒形老師が懐かしく思います。

合掌



町田前総監・駒形総監とのハワイ100周年の折

特集 両大本山ワークショップ・講演会抄録

[2024年9月6日(金) 於 大本山總持寺／9月7日(土) 於 大本山永平寺]

境界のない世界～世界中に渡る禅～

講師 フェルナンデス 浄賢^{じょうけん} (千葉県長泉寺副住職)

講師プロフィール

1990(平成2)年、ブラジル・サンパウロ市生まれ。14歳で禅と出会い、同市内の曹洞宗両大本山南米別院仏心寺にて参禅を続け、2012(平成24)年、南アメリカ国際布教総監・采川道昭師(当時)のもとで得度の後、可睡斎専門僧堂に安居(1年半)。

その後、両大本山南米別院仏心寺で2年間活動し、2016(平成28)年より大本山總持寺にて安居(4年)。その間、海外研鑽僧としてヨーロッパ(フランス、スペイン、オランダ)にて3ヶ月間研修する。また令和元年夏安居では大本山總持寺初の外国籍僧侶として首座を務める。

2020(令和2)年より3年間、曹洞宗総合研究センター教化研修部門国際布教課程にて研修。その間、海外研修生としてアメリカ合衆国に3ヶ月間研修滞在。

2023(令和5)年、千葉県長泉寺住職・関篤雄師より嗣法。

現在は長泉寺副住職として活動しながら、宗門の国際布教の次世代を担う一人として期待されている。



皆さんこんにちは。

この度は、「境目のない世界、世界中にわたる禅」というタイトルでお話をさせていただきます。現在では世界中に禅が広がっております。

まずは自己紹介をさせていただきます。私は1990年に南半球一番の大都市ブラジルのサンパウロ市で生まれました。仏縁がありまして、14歳の頃には坐禅修行をさせていただいておりました。22歳で得度して、その年に可睡斎に上山させていただき、2016年、26歳の時に大本山總持寺に上山し4年ほど安居しました。總持寺では初めての外国人首座を務め、首座として修行僧の先頭に立ち、共に修行をさせていただきました。また、2020年から曹洞宗総合研究センター教化研修部門に3年間在籍し、現在は千葉県市原市の長泉寺の副住職を務めさせていただいております。

今年、鶴見大学付属高等学校でお話しする機会がありました。その際、事前に質問をいただき、その質問に沿って講演をしました。色々な質問がありましたが、特に、「海外にも仏教とかお寺ってありますか?」「なぜ外国人が僧侶になるのですか?」「なぜお坊さんになつたのですか?」という、この3つの質問が多くありました。

今日もこれらの質問についてお話を進めていきたいと思います。

皆様は本山僧堂で、様々な経験をされていると思いますが、海外ってどんな感じなのかな?と思ったことはありますか。

一つ目ですが、「海外には仏教とかお寺ってありますか?」という質問ですが、簡単に答えますけれども、お寺はあります。日本仏教だけではなく、チベット仏教、上座部仏教などがあり、日本仏教は各宗派あります。現地の別院等に仏教センター等を置くなどの形があります。曹洞宗も同じように、ハワイ、北米、南米とヨーロッパに総監部という、いわゆる宗務所のようなものがありまして、その地域の布教活動、あるいは僧侶や寺院の書類関係を整えたり処理したりしているところなんです。

海外における曹洞宗の始まりは、日本人の移民とともに始まった歴史であるということです。今日は、海外における曹洞宗の歴史に少し触れていきたいと思います。

まずはハワイから始めさせていただきます。ハワイの曹洞宗の歴史は、日本人移民とともに始まりました。1885年から日米両政府の移民契約によって約2万9千人の日本人が、さとうきびのプランテーションなど農産物栽培の就労のためにハワイ諸島に移住しました。しかしながら、その環境は本当に過酷なものでした。賃金や暮らす場所等、すべてにおいて本当に大変な状態だったようです。

その頃に、日本の各宗派が僧侶をハワイへ派遣していました。曹洞宗も同じように1903年に広島県出身の河原仙英師がオアフ島へ布教活動のために派遣されました。それから後、ワイパフに太陽寺というお寺が建立されました。同じく広島県出身の菅良雲師がハワイに派遣され、カウアイ島ワヒアワに禅宗寺を建立します。この禅宗寺は後にカウアイ島ハナペベに移転しました。1913年には磯部峰仙師が派遣され、ホノルルに別院を開きます。磯部師は1918年にハワイ布教管理という役職に任命され活動を続けます。1921年に大本山總持寺貫主新井石禅師を拝請して別院の落慶法要が行われました。新井禅師は約1ヶ月間ハワイに滞在し、各地を回りながら布教活動を50回もされ、現地の人々が約300名参加したと記録されています。

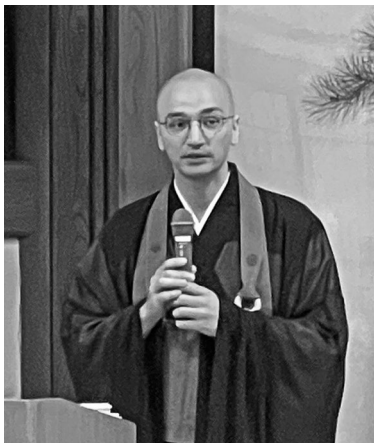
1922年に磯部峰仙師がロサンゼルスに転任し、ハワイの布教管理は駒形善教師が後任となりました。1938年にハワイ布教総監に任命され、ここで初めて現在まで続く「総監」という役職名が使われるようになります。

続いて北アメリカに移ります。こちらもハワイと同様に日本からの移民とともに始まります。ハワイで活動していた磯部峰仙師が、新井石禅師の要請によって1922年にアメリカ本土を訪れたことが、北アメリカにおける曹洞宗の布教活動の始まりとされております。

磯部師は日系移民の方々の協力のもと、ロサンゼルス市内に禅宗寺仮教会を設立、その後、土地を購入し、1926年には禅宗寺を建立、1969年に現在の伽藍に建て直されました。

1960年代のアメリカでは、若い世代の人々が新しい社会を描き追求め、その頃にいわゆる禅ブームがおこりました。その頃から禅が一般的になります。その禅ブームが始まってからは、非日系の方にも広く知られるようになりました。また、ベトナム戦争をきっかけに、当時のアメリカの社会を批判していた若者が、平和や調和を求めて、また新しい生き方を望んで、ヨガや瞑想、坐禅などをするようになりました。





当時の日系寺院で活動していた3名の日本人僧侶は、アメリカ人の参禅者を弟子として受け入れるようになり、それから禅や仏教がさらに広く知られるようになりました。その3名とは、鈴木俊隆師、前角博雄師、片桐大忍師です。

この3名は北米のみならず、海外における曹洞宗の柱のような存在です。前角博雄師は、1956

年に、両大本山北米別院禅宗寺において開教師として渡米し、現地の方を指導し続け、1967年にロサンゼルス禅堂を創設しています。1969年には、土地建物を取得して仏真寺という寺院を建立しました。その仏真寺というお寺は、現在では禅センター・オブ・ロサンゼルスとしてよく知られています。禅センター・オブ・ロサンゼルスは、歴史的に大きな役割を果たしているといえます。ここで修行をした僧侶が様々な国に行き布教をしていきます。例えば、ブラジルやヨーロッパにいる僧侶の中にも、はじめは禅センター・オブ・ロサンゼルスで禅に出会ったという僧侶が多くいます。

現在、ブラジルにブラジル人のソーザ孤圓という尼僧さんがいらっしゃいます。孤圓師は前角博雄師について得度され、禅センター・オブ・ロサンゼルスで修行し、愛知専門尼僧堂にて青山俊董老師のもとで立身、大雄山最乗寺の余語翠巖老師より嗣法を受けた方です。今、ブラジルでものすごく人気があり、インスタグラムやSNSで約300万人からフォローされている方です。

同じ時期の1959年には、鈴木俊隆師が桑港寺というサンフランシスコにある日系寺院に主任開教師として渡米しました。その後、現地の人々に坐禅の指導を始め、後に弟子として受け入れていきます。1961年には、海外にある日系寺院以外として初めて曹洞宗宗務庁から認められた、サンフランシスコ禅センターが創設されます。

3人目は片桐大忍師です。片桐師は両大本山北米別院の禅宗寺内にあった北米禅仏教昌揚研究所に1963年に入所し、その研修生活を終えた後にサンフランシスコの桑港寺において、鈴木俊隆師の補佐を務めました。その後、1972年に曹洞宗未開の地であった、アメリカ中西部の地で活動を始め、中西部ミネソタ州のミネアポリスにミネソタ禅センターを創設しました。この3名は北アメリカの曹洞禅において、本当に重要な役割を果たしました。その3名のお陰と言っていいかわかりませんが、今日北アメリカをはじめ西洋で曹洞禅がものすごく知られる起源になっています。

南アメリカに移ります。南米におきましては、1899年に日本からの移民が始まります。第1回目の移民は790名で、その移民船はペルー共和国に到着し、移民たちはハワイと同じようにサトウキビの栽培に従事しました。こちらはハワイ以上に大変で過酷な生活環境だったようです。最初の年に、約150名が亡くなるという様な大変な環境でした。

1903年に曹洞宗より南米開教師として上野泰庵師がペルーへ派遣され、1907年に慈恩寺というお寺を建立しました。南米の最古の仏教寺院であり、今でも活動しているお寺です。ブラジルはポルトガルの植民地であった頃から、奴隷制度によるサトウキビやコーヒーなどの栽培作業をしていましたが、奴隷制度の廃止によってブラジル政府はヨーロッパからの移民を受け入れ、サトウキビやコーヒーなどのプランテーションで仕事をするようになりました。ただ、ペルーやハワイと同じようにすごく大変な生活環境なため、ヨーロッ

パからの移住者たちも反発して、その移民が中止となりました。そのため労働力が不足し始めたため、1908年にブラジル政府と日本政府の契約によって移民政策が始まり、1993年までその移民が続くわけです。世界で一番多く日本人が移住した国と言われており、85年間の間に約30万人が移住し、今でも日系人が一番多くいる国といえばブラジルです。

ブラジルでは当時、政府によりカトリック教以外の宗教の布教活動に制限がありましたので、第二次世界大戦までは、曹洞宗をはじめ、他の仏教は布教活動ができませんでした。しかし、1908年頃には既に日本仏教の僧侶がブラジルに渡っているということは知られております。第一回目のブラジルへの移民船の中に、本門仏立宗という宗派の茨城日水上人という僧侶がおられて、それが初めての日本仏教の僧侶がブラジルに渡ったことになるのではないかと思います。

正式に曹洞宗の布教活動が始まったのは、1952年ブラジルに移住していた曹洞宗の檀信徒の方々が宗門の布教活動を求めたことにより、1955年に高階瓏仙禅師の訪問をいただくことになりました。高階禅師は約3ヶ月間ブラジルに滞在して80会場ほどを巡錫し、多くの檀信徒と話しをされました。それがブラジルでの曹洞宗の布教活動の最初とされております。サンパウロ州にあるモジダスクルーゼス市に禅源寺というお寺を建立し、ブラジル初の禅寺と言われております。1956年に宗務庁の秘書課長であった新宮良範師が南米総監に任命され、1959年にサンパウロ市に南米総監部を設置すると同時に、両大本山の南米別院佛心寺も創建されます。その翌年に現在の場所に移転します。現在でも南アメリカだけで、50以上の寺院や禅センターが存在しています。

ヨーロッパでの曹洞宗の布教活動は、これまでのハワイや北米、南米と違い、移住した日系人への布教ではなく、現地の人々に対するものでした。ヨーロッパで生まれ、その地の文化や宗教のなかで育ってこられた方々に対して布教活動が始まったわけです。アメリカと同様に当時の社会を批判していた若者、またエリート階級の人々が、経済制度や社会制度を疑って批判し、新しい生き方を求めていた。そういった人たちが東洋主義、オリエンタリズムと言いますが、東洋の文化にものすごく興味を持ち、ヨガやヒンズー教、もちろん仏教も含めて、それを自分の生活に取り入れるようになりました。

ヨーロッパでの曹洞宗の布教の歴史は、澤木興道老師のもとで長く参禅していた弟子丸泰仙師がフランスに行かれたことから始まります。1967年にシベリア大陸横断鉄道に乗ってロシアからフランスまで行かれました。パリに降り立ち、食料品店の倉庫の中を坐禅堂として活動を始めました。弟子丸師は説明するというよりも、実践することを大切にしていたそうです。あるエピソードがあります。知識人階級の方々の会があり、その集まりの中で「禅とは何か？」と聞かれた弟子丸師は、何かを語り説明するのではなく、テーブルの上で坐禅をして紹介したということがあったようです。それを見た人が非常に興味を持ったことで、さらに禅が広がり、ブームとなり、弟子丸師がパリに到着した次の年にはヨーロッパ禅教会という会が設立されました。1976年には弟子丸師が初代のヨーロッパ総監に任命され、パリ市内に仏国禅寺というお寺が建立され、曹洞宗欧州開教総監部が設立されました。しかし、1982年に弟子丸師が遷化されたことで総監部は閉鎖され、それによって、しばらくの間、日本とのつながりが薄くなりました。もちろん坐禅修行を続けた修行者、僧侶、参禅者がいたわけで、日本まで師僧を求めたり、禅グループを組織したりする人もいました。1997年には正式な関係を再び築こうとするヨーロッパ人僧侶が曹洞宗宗務庁を訪れ、日本の伝統から学ばなければならないという気持ちを伝えたことで、宗務庁からその状況を視察することになりました。その結果、2002年にイタリアのミラノに改めてヨーロッパ総監部が設置され、總持寺の西堂

も務められた原田雪溪老師が総監に就任されました。その後は、今村源宗老師が総監を務められ、2007年にはフランスの禅道尼苑でヨーロッパでは初めての宗立専門僧堂が設置され、11名が掛塔しました。宗立専門僧堂というのは、曹洞宗が主催し外国籍僧侶のために3ヶ月間修行ができるように僧堂を設置することです。数回ほど海外で宗立専門僧堂を開設し、それに安居をした方々も多数おり、坐禅や儀式、宗乗などを学び、最終的には資格を得ることになります。

このように歴史をさっとお話ししてきましたが、なぜ外国人が僧侶になるのかという疑問ですが…。それを知るためには、少し日本人移住者の宗教観についてみていきたいと思います。移住した人の多くは若者たちというふうに知られているんですが、若い人たちだったからこそ宗教についての知識が薄かったと言われております。移住者たちの中では深くお寺と関わったりしていた方はあまりいなかったということです。さらには移住する方というのは生活の中では多くの困難があり、違う国に住むとなると、その地域の習慣や言語、宗教なども知らなければなりません。そうでなければ完全にその社会に参加することは難しいのです。私の経験上で言いますと、私は日本で修行をし、また僧侶として活動しているのですが、最終的には私は移住者です。このようなテーマを総合研究センターで調べるようになった時に、よく分かったというか、なるほどなと思ったんですが、移住者としては、その環境に溶け込むためには、自分というものを自分が思っているものを何度も何度も手放す練習を繰り返ししなければならないということです。でなければ、なかなか受け入れられないですね。僧侶として、このように着物を着てお話ししたり、法要をしたり、最初は大丈夫か？と思われる人も多いんじゃないかなと思います。家族で移住した人、一人で移住した人もそうなのですが、母国の宗教と関係を保っていたとしても、移住した国で人々と交流することで自然にさまざまな影響を受け、新しい習慣が始まるわけです。つまり日本人の移住者とその子孫が、移住国の文化とその社会に溶け込むために、その国の宗教や言語、習慣、様々なものを身につけなければならない。それと同時に、自分の国の文化や言語などを守って自分のアイデンティティを保たなければならない。

外国人がなぜ僧侶になるのか？それは先ほど見たように、60年代80年代ぐらいに、欧米だけではなく、南米も含めて東洋文化が流行り、日本のみならずインドや中国、韓国などの文化を取り入れるようになります。多くの当時の若者が新しい社会を求めて今まで生きてきた社会の中で、何か違う方法や方向性がないかということを探求している中で、仏教やヒンズー教、ヨガなどに関心をもつようになります。

まとめてみますけれども、移住した日系人は、仏教徒としての信仰というものは、母国の文化を守るだけではなく、移住国での自分たちのアイデンティティを維持するため。大変過酷な環境で暮らしていた人々にとっては、日本の各宗派から派遣してもらった僧侶は、精神的な支えであり、また亡くなられた方々の供養も含めて、大切な役割を果たしていました。それだけではなく、当時の日本語クラス、母国の言語や文化を守るための日本人学校も北米や南米に設立され、その先生を僧侶が務めていたということもよく知られてお

ります。

異国に移住して、母国の文化を守りながら、その国の文化も取り入れることは精神的な負担があります。それと同時に自分のアイデンティティ、例えば自分は日本人なのか、もしくはアメリカ人、もしくはブラジル人かという気持ちが混乱してきても、そのアイデンティティを維持しなければならない。そのためには仏教をものすごく大事な役割を果たしていたというふうに思います。

なぜ私は僧侶になったのかという質問ですが、正直言いますと自分も答えがよくわかりませんが、取えて言おうとすれば…。

私、本当に非常に小さい頃から日本文化というものにすごく憧れていまして、なぜかと聞かれてもわからないとしか答えられないのですが、本当に自分のことを思い出してみても日本というものが好きだったということだけです。この写真は私が10歳の頃で、武道を始めたぐらいです。この場所は、今の両大本山南米別院佛心寺です。たまたまですけれども、そこで武道との出会いがあり、稽古し始めたんです。そして、14歳の頃には和太鼓と縁があり、同じく佛心寺で和太鼓を練習するようになりました。この左の写真は、私が当時の総監の三好晃一老師より、その太鼓団体の法被を受け取っている写真です。その太鼓の団体は、禅太鼓という名前でした。そして、同じ年に初めて坐禅と出会い、その坐禅の出会いもたまたまでした。知り合いに誘われて、一緒に瞑想行かないかというふうに誘われて行ってみたら、同じく佛心寺だったので何度も何度も佛心寺に戻るような、縁が縁に恵まれたんです。そして、2012年に得度するようになります。当時の総監、私の授業師にあたる采川道昭老師から、「君、お袈裟を作ってますか？」とお袈裟を作るというのは僧侶になるという意味ですが…。「いいえ、まだ作っていないんですけど…」じゃあ作りますとなり、その後、得度をし、得度した後に「君は日本に行かないか？」と。「あっ、じゃあ行きます」という感じで答えて、半年後には静岡県にある可睡斎専門僧堂に上山しました。最初の自己紹介の時に話ししましたように、可睡斎では一年半ぐらい修行をし、その後、一度ブラジルに帰国、2年ぐらい南米別院佛心寺で務めさせていただきました。また縁があり、こちらの大本山總持寺に上山させていただくことになり、平成28年から4年間修行をしました。一通りの配役を務めさせていただきました。大船観音寺にいる間には海外研鑽僧という研修期間をいただく縁もいただきました。それは、毎年、両大本山から2人ぐらい派遣していると思うんですが、両大本山僧堂だけではなく、専門僧堂からも、ヨーロッパやアメリカ、南米などの寺院や禅センターで約3カ月間研修ができるプログラムですが、私は3ヶ月間、フランスやスペイン、オランダの禅センターで研修をしました。その後に、總持寺では初の外国人首座を務めさせていただきました。總持寺を送行した後に、曹洞宗総合研究センターに入り、そこにも国際布教課程という研修課程があり、その間にも3ヶ月間の海外研鑽をさせていただきました。その時は北米に行き、約3カ月間、アイオワ州とカリフォルニア州の禅センターで修行をさせていただきました。現在は千葉県市原市山古川にあるお寺で副住職として、関篤雄老師、總持寺の遠忌局参拝部長を務めているかたですが、関老師の下で修行し、いろいろ学ばせていただいております。

とても拙い話だったと思いますが、海外における曹洞宗について少しでも知識を持っていたらありがたいなと思っております。どうもありがとうございました。

(事務局より：本稿は2024年9月6日に大本山總持寺で行われたワークショップの録音をもとに趣意を損ねることないよう編集し、発表者に了承を得たものです。)

※ワークショップ中に視聴した動画は曹洞宗において作成されたもので、インターネットにてどなたでも視聴できますのでどうぞご覧ください。

動画は➡のQRコードより視聴できます。



参加者アンケート内容（抜粋）

大本山總持寺

（安居年数／出身地／講演を聴講して感じたこと）

(1)1年目 静岡県

海外で禪文化に触れることはなかなか難しいことを知りました。海外にある寺や坐禅堂のほとんどは余っている建物を活用し、殿鐘は消火器を再利用して作っているなど様々な工夫をされていて興味深かったです。しかし逆にこういった環境下でないと得られないものも沢山ありそうだなと感じました。

(2)1年目 愛知県

日本の修行は教師資格を得るのが目的になっているが海外の修行僧は資格以外の事を得るために修行しているように感じた。修行の本質を考えさせられる講演でした。

(3)2年目 宮城県

今回のSOTO禪国際ショナル講演会を通して、こんな大規模に日本から全世界に曹洞宗の教えが布教されていることを初めて知りました。私たちが感謝の気持ちを忘れずに日々修行していきたいとあらためて感じました。

(4)1年目 静岡県

曹洞宗における国際布教の歴史や現在の状況について知ることが出来てとても有意義な時間でした。特に在外日本人がアイデンティティの維持のために仏教に帰依したのに対し、外国の方はアイデンティティの構築のために僧侶になられているという対比構造、分析がとても興味深かったです。

(5)1年目 宮城県

今回の講演をきっかけに世界中に展開されているSOTO禪に興味を持ちました。他の宗教と比べてどんな特徴があるのか調べてみたいです。

(6)1年目 東京都

私たちが学ぶ仏教が、国籍、国境を越えて多くの人たちに寄り添っていることを知ることが出来て仏教を学んでいくモチベーションにつながった。

(7)4年目 宮城県

海外の禪の発展は東洋文化への関心の高さが起因しており、その背景には日本人移民が大きく関わっていること、また海外の各自国民におけるアイデンティティの探求先として禪を求めたことが関係しており興味深く拝聴させていただきました。

(8)1年目 神奈川県

宗教はアイデンティティにとって大きな役割をはたし、またその土地ごとによって食べるものや建物、法式等に特色が出ているのが印象的でした。

(9)1年目 群馬県

ハワイなどでは100年以上前から布教活動されていて歴史を感じました。その中でブラジルでは戦後まで開教活動でできなかったことや、日本人移住者ではなくヨーロッパ人を対象に布教していた欧州開教総監部の閉鎖と再開といった困難を乗り越えたお話はとても印象に残りました。

(10)1年目 愛知県

講演を通して、一番感じたことは、「仏教に壁が無い」のだということであった。經典等に違いはあっても、主として行っている修行生活は自分らと変わらず、むしろ海外のほうが、ある物で生活する修行本来の質素な生活を実践できているようにまでみえた。

(11)1年目 東京都

何かを広めるには知識、経験、想いが必要であると同時に普遍の精神が重要なのではないかと考えました。布教とは己を磨き精神と身体を鍛えぬいた先にあるものだと本講演で学ばせて頂きました。

(12)1年目 静岡県

日本のお寺は昔からの物が多いから「和」というイメージが強く海外のお寺は、何となくお寺なので「洋風」なイメージのお寺が多かったです。海外の方の僧は瑞世でしか見ることがなかったので新鮮な体験でした。

(13)1年目 東京都

いろいろな国に修行するためのお寺があることがわかりました。飯台のカタチにも様々なカタチがあることを知りました。実際に海外へ行って様々なお寺を見ることが出来ればまた日本のお寺の見え方も変わっていくのだと思いました。

大本山永平寺

（安居年数／出身地／講演を聴講して感じたこと）

(14)1年目 秋田県

アメリカ各地の寺院、禅道場が迫害されることなく、現在も存続している事実から、異なる文化圏の人々から反発されずに受け入れられる仏教思想の力強さを感じました。

(15)1年目 神奈川県

海外の曹洞宗にさらに興味を持つことができた。禅という概念をより分かりやすく伝えるための布教活動にもご縁があれば貢献させていただきたいと感じた。

(16)3年目 東京都

海外の寺院で、禅堂が整っていて小参や法要を行って想像以上に本格的だった。また自然豊かで閑静な場所に建立された寺院が多く、坐禅に適していると思った。

(17)1年目 神奈川県

日本とは、違うところがあるなとは思っていたけれど、それでも根っこの部分というか禅の心は同じなのだなと思い、日本で修行できている自分は幸運だと思った。日本の禅堂の完全な再現が難しくても色々工夫して感動した。

(18)1年目 宮城県

ハワイ、北米、南米では移民とともに広がったという下地が同じでも異なる形で広がっていることや、欧州ではそもそも下地が異なること、海外におけるお寺や修行の形など初めて知ることが多くありとても興味深かった。

(19)1年目 千葉県

国によって形や在り方は違えど同じ志を持って日々修行に勤めている人がいるということは嬉しくもあり同時に機会があればそういった人々と是非交流してみたいと思いました。私たちが生きる現代これからの時代において禅文化はよりグローバルに広がることでしょう。

(20)1年目 愛知県

海外で言語や文化が異なる中で行われる布教は困難が多いことかと思いますが今日までの間、多くの方の尽力があって今の世界に受け入れられている禅があるのだと思います。海外における仏教の始まりが移民の方と共にあったというのは、宗教が異なる文化、環境に身を置く中で自らのアイデンティティとなり、心の拠り所となるからだと思いました。

(21)1年目 島根県

曹洞宗が世界でも広まっているということは聞いたことがありましたが、どのように布教されたのかは知りませんでした。私も海外で布教活動が出来る様に仏道勉学に励みます。

(22)1年目 宮城県

移住することで色々な人に支えられていることに気付いたとおっしゃっていたのを聞いて、今と全く違う環境に身をおく、海外に行くことで気付くことが多いのだら

うな感じました。私も海外に行くなどして多くのものを見て感じ、様々な経験をこれからしていきたいと思いました。

(23)4年目 福井県

欧米に仏教が伝わるという歴史的な出来事がそれほど昔の事ではないと知り、我々は仏教の歴史において激動の時代を生きているのではないかと感じた。

(24)2年目 三重県

海外の方が布教活動を熱心に行っていてすごいと思った。日本に住む私たちはそれ以上の熱意をもって布教に望まなければならないと思った。

(25)2年目 静岡県

海外の方のほうが日本の多数の僧侶よりも志を高く持っている気がするので今一度省の必要があると感じた。

(26)2年目 鳥取県

自分の意志で海外(キリスト教圏)での出家得度をした浄賢師をすごいなと尊敬すると同時に羨ましくも思います。また海外の色々な僧堂の写真を拝見して、世界中の人々にこのような場所を作らせるような、仏教の魅力について及ばずながら参究しなければならぬと感じました。

(27)2年目 静岡県

今回の講演を聴き、外国に行き、他の文化のもとで仏教を学ぶことに関心がわいてきた。機会があれば私も一歩踏み出して挑戦してみるのも良いなと思いました。

(28)2年目 長崎県

日本だから、海外だから、何も変わらない場所が違うだけで皆同じように参禅辨道に励んでいると確信した。

(29)2年目 京都府

キリスト教やイスラム教、ヒンドゥー教等の有名な宗教からしたら小規模の仏教の、それも禅宗である曹洞宗という異形の宗教が海外の方々にも親しまれ、僧侶となって辨道されている方々までいるというのは、私にとっても驚くべきことだった。

(30)2年目 福岡県

自国の文化や言語、生活環境から離れて宗教活動をするの大変さを実感することができたように思う。同時に、同じ仏教でも国や地域によって様々な捉え方、向き合い方があることを知った。

(31)2年目 静岡県

海外のお寺に参禅に来る方、修行をする方は「禪」として出会ってお寺に行っている。講師老師も「縁起」で「禪」と出会っている。改めて仏教、そして曹洞宗のすごさを感じました。

(32)3年目 愛媛県

海外での布教の歴史を知る良い機会となった。今までとはまったく異なる文化の土地で布教をしていく難しさが有ると思うが、単純に日本語を直訳するのではなく、現地の文化に合った言葉を使うなど相手の立場に立つことが大切だと感じた。

(33)2年目 北海道

講演もさる事ながら最後の質問の時、浄賢師が「風が吹いたらそこに行くだけ」と答えていて印象深かった。

(34)3年目 静岡県

法衣店がない海外では得度する際は、自分でお袈裟を縫うことから始まるということとても素敵なことに思いますし、息子として衣服を用意された私からしたらそのような出家得度をしてみたかったとも感じます。

(35)1年目 秋田県

言語と文化のつながりの中で、海外で教化を行うことは難しいのだらうなと思っていたが、禪を通して広がる縁もあるのだらうと思った。海外で自分も活動したい

と決意が固まる良い機会を頂けて有難い。

361年目 愛知県

禅(ZEN)というものが世界中に広まっていることは聞いたことはありましたが、それが心の拠り所となり、実際に世界に影響を与えているとフェルナンデス浄賢さんの言葉で伝えられると、あらためて禅の影響、またすばらしさを感じました。

371年目 山形県

私は英語も話せない為、海外布教というとてもハードルが高く感じている。海外布教国際布教を行っている方々には本当に尊敬の気持ちである。私も何かの力になれるようにまずは一仏両祖の教を学びたいと思う。

381年目 埼玉県

私も乞暇したら海外のお寺に行ってみたいと思いました。そして世界中に曹洞宗を広めたいです。

391年目 東京都

文化は違えども心の支えを求める行為は共通しているのだと思った。特にフランスにて欧州開教総監部が閉鎖された時期にも現地の方々が辨道し続け、活動を絶やさなかったことはそれだけ仏教という生き方が浸透していた現れだと感じた。

403年目 秋田県

諸外国の寺院、禅堂を様々見せていただいたがそれぞれの地域に合わせた設備や生活が整えられ、しかし根底には日本よりもずっと曹洞宗の精神をひしひしと感ずるような素晴らしいものだったように感じた。

411年目 栃木県

南米の曹洞宗寺院は坐禅や精進料理、華道などの禅文化を通した地域コミュニティの場として機能しており、現代において寺院が存続していくための一例として参考にしたいと思いました。

※フェルナンデス浄賢師が講演の中で使用した曹洞宗の国際布教に関する動画は、YouTubeにてどなたでも視聴できますので是非ご覧下さい。QRコードを読み込むことでその他の動画も閲覧できます。



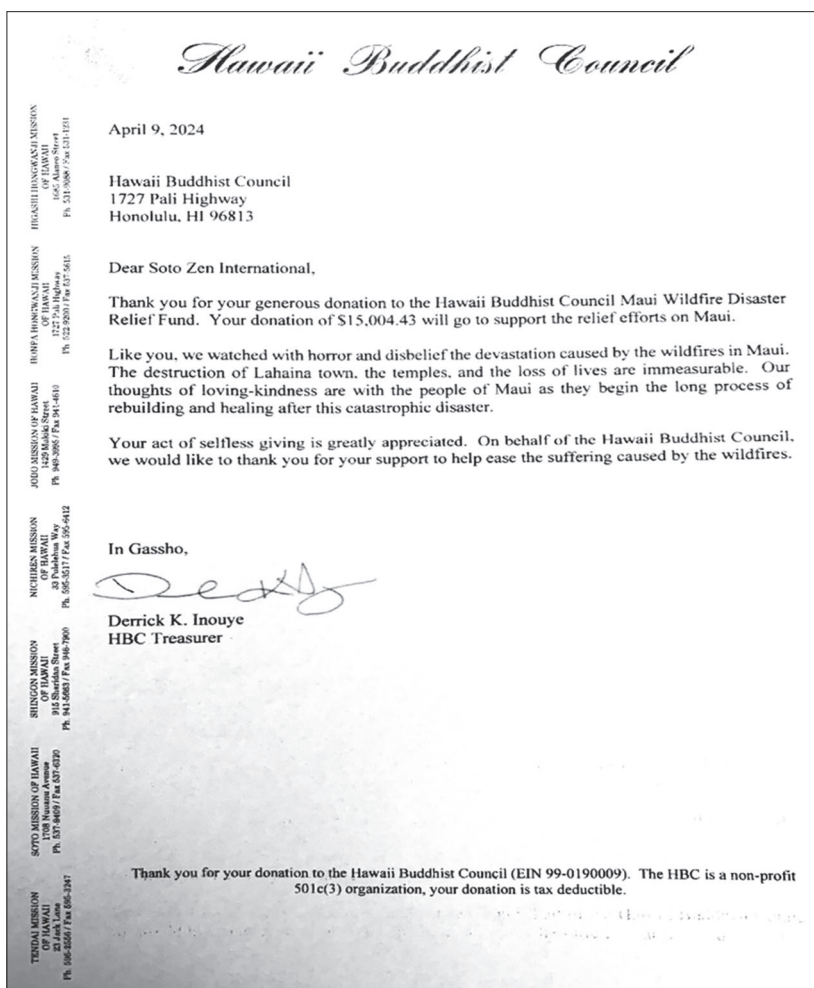
～ご報告～

ハワイ仏教連盟よりお礼状が届きました

2023年8月8日に発生したアメリカ合衆国ハワイ州マウイ島での山火事の甚大な被害に際し、SZIご縁の皆様方におかれましては、義援金という形でのご協力をいただき本当にありがとうございました。

お陰様で、合計2,542,110円の義援金が集まり、宗務庁財政部のご協力をいただきながら、ハワイ仏教連盟を通しマウイの被災地のために送金させていただきました。

この度、現地を代表してハワイ仏教連盟よりお礼状が届きましたのでご報告させていただきます。



(要約)

SZIの皆様

皆様からの温かいご支援を、ハワイ仏教連盟マウイ山火事支援基金にお寄せいただきましたことに心より感謝申し上げます。

皆様もメディア等でご覧になった通りマウイの山火事被害では、歴史あるラハイナの町や寺院、多くの命が失われました。皆様と私たちの慈悲の心は、この甚大なる被害からの長い再建の道を歩み始めたマウイの人々とともにあります。

改めてこの山火事被害への皆様からの心からのご支援に対し、ハワイ仏教連盟一同衷心より感謝と御礼を申し上げます。

合掌

2024年度 会費納入者・賛助金納入者名簿

ありがとうございます。
大切にさせていただきます。
(敬称略)

■助成金

曹洞宗宗務庁
大本山永平寺
大本山總持寺

■会費納入者ご芳名

北海道 定光寺 大道光肇
北海道 薬王寺 田中清元
岩手県 宝積寺 田村優子
宮城県 國分尼寺
宮城県 松源寺 東海泰典
宮城県 秀林寺 計良弘信
宮城県 功岳寺 関弘爾
宮城県 円満寺 館寺規弘
宮城県 輪王寺 日置道隆
宮城県 壽徳寺 熊谷徳生
宮城県 城國寺 菅原英州
宮城県 洞林寺 吉田俊英
秋田県 満友寺
秋田県 永泉寺
秋田県 天龍寺 八島國雄
秋田県 満福寺 伊藤道人
秋田県 月宗寺 袴田俊英
秋田県 松庵寺 渡邊紫山
秋田県 長慶寺 深川典雄
秋田県 乗福寺 中泉俊堯
山形県 清龍寺 大山健治
山形県 宝泉寺 采川道昭
山形県 見龍寺 池田好斉
山形県 長泉寺 結城俊道
福島県 長泉寺 石月聰明
福島県 長照寺 葉貫成悟
福島県 石雲寺 北條正興
茨城県 龍泉院 堀江眞澄
栃木県 松林寺 村上泰賢
群馬県 東善寺 村上泰賢
群馬県 仁叟寺
群馬県 長楽寺
群馬県 宗泉寺
群馬県 桂昌寺 平子泰弘
群馬県 神守寺 堀口智玄
群馬県 祥雲寺
埼玉県 松林寺 森道輝
埼玉県 建福寺 安野正樹
埼玉県 東竹院 岸世一
埼玉県 東榮寺 大森篤史
埼玉県 松林寺
埼玉県 寶持寺 馬場知行

埼玉県 昌福寺 荒井裕明
埼玉県 慈眼寺 西村宗洋
埼玉県 長青寺 引間維一
埼玉県 長光寺 福島伸悦
埼玉県 円通寺 小泉悟道
千葉県 永福寺 吉村明仁
千葉県 永興寺
千葉県 真光寺
千葉県 新井寺 松井量孝
千葉県 宗胤寺 児玉重夫
東京都 大龍寺 太田賢孝
東京都 宗清寺 飯島尚之
東京都 大泉寺 久保井賢丈
東京都 龍澤寺 関岡俊二
東京都 江岸寺 来馬宗憲
東京都 源照寺 坂下康之
東京都 俊朝寺
東京都 観泉寺 西澤心人
東京都 祥雲寺 土肥泰源
東京都 東光院 高崎忠道
東京都 静勝寺 烏澤俊寛
神奈川県 泉秋寺 館盛寛行
神奈川県 梅宗寺 佐藤直道
神奈川県 大蔵寺
神奈川県 吉祥院
神奈川県 善光寺 黒田博志
神奈川県 浄心寺 栃堀眞英
神奈川県 龍寶寺
神奈川県 東林寺 瀧田健久
神奈川県 大船観音寺
神奈川県 正翁寺
神奈川県 東泉寺
神奈川県 永明寺 石田征史
神奈川県 黙仙寺
神奈川県 貞昌院 亀野哲也
新潟県 宗現寺 乙川咲元
新潟県 大榮寺
新潟県 龍泉院 神谷謙光
富山県 徳城寺 橋本徳倫
福井県 御誕生寺 猪苗代昭順
長野県 桃源院 山本健善
長野県 正麟寺
静岡県 洞雲寺 糸柳格順
静岡県 貞善院 木南広峰
静岡県 永明寺 加藤孝正
静岡県 冷泉寺 佐野和成
静岡県 可睡斎 采川道昭
静岡県 萬松院 吉田宏得
静岡県 洗耳寺 長田敬道
静岡県 信香院 高田路久
静岡県 新豊院 水野克彦
静岡県 元長寺
静岡県 医王寺 南原一貴
愛知県 寶泉寺

愛知県 神藏寺
愛知県 龍潭寺 別府良孝
愛知県 天徳寺
愛知県 西光寺 小原智司
愛知県 長松院 篠田一法
愛知県 愛知専門尼僧堂 青山俊董
愛知県 宝珠寺
愛知県 東正寺
三重県 廣禪寺 武内宏道
京都府 祥雲寺
京都府 興聖寺
京都府 宗仙寺 細川浩代
京都府 苗秀寺 大谷俊定
大阪府 吉祥院 嶽盛和三
鳥取県 大岳院 中村見自
岡山県 洞松寺専門尼僧堂 鈴木聖道
広島県 聖光寺 田中哲彦
広島県 道心寺 五十嵐靖雄
広島県 禅昌寺 横山泰賢
高知県 願成寺 伊藤祐司
長崎県 智性院 大久保正元
長崎県 洞禅寺 中村覚道
長崎県 妙本寺 吉谷大憲
大分県 松屋寺 藏山大顕

■賛助金納入者ご芳名

北海道 興禅寺 太田広康
北海道 薬王寺 田中清元
青森県 大乘寺
岩手県 宝積寺 田村優子
宮城県 松源寺 東海泰典
宮城県 秀林寺 計良弘信
宮城県 円満寺 館寺規弘
宮城県 壽徳寺 熊谷徳生
宮城県 城國寺 菅原英州
秋田県 天龍寺 八島國雄
秋田県 満福寺 伊藤道人
秋田県 月宗寺 袴田俊英
秋田県 松庵寺 渡邊紫山
秋田県 長慶寺 深川典雄
山形県 山形県第三宗務所
山形県 長泉寺 結城俊道
福島県 長泉寺 石月聰明
茨城県 龍泉院 北條正興
栃木県 松林寺 堀江眞澄
群馬県 東善寺 村上泰賢
群馬県 昌雲寺
群馬県 長楽寺
群馬県 宗泉寺
群馬県 神守寺 堀口智玄
群馬県 祥雲寺
埼玉県 松林寺
埼玉県 東榮寺 大森篤史

埼玉県 松林寺 森道輝
埼玉県 寶持寺 馬場知行
埼玉県 慈眼寺 西村宗洋
埼玉県 長青寺 引間維一
埼玉県 長光寺 福島伸悦
埼玉県 円通寺 小泉悟道
千葉県 永福寺 吉村明仁
千葉県 永興寺
千葉県 真光寺
千葉県 新井寺 松井量孝
東京都 大龍寺 太田賢孝
東京都 宗清寺 飯島尚之
東京都 大泉寺 久保井賢丈
東京都 龍澤寺 関岡俊二
東京都 江岸寺 来馬宗憲
東京都 源照寺 坂下康之
東京都 観泉寺 高崎忠道
東京都 静勝寺 瀧田健久
神奈川県 東林寺 大船観音寺
神奈川県 東泉寺
新潟県 宗現寺 乙川咲元
新潟県 大榮寺
富山県 徳城寺 橋本徳倫
長野県 桃源院 山本健善
静岡県 洞雲寺 糸柳格順
静岡県 永明寺 加藤孝正
静岡県 冷泉寺 佐野和成
静岡県 可睡斎 采川道昭
静岡県 新豊院 水野克彦
静岡県 元長寺
静岡県 医王寺 南原一貴
愛知県 龍潭寺 別府良孝
愛知県 天徳寺
愛知県 西光寺 小原智司
愛知県 長松院 篠田一法
愛知県 愛知専門尼僧堂 青山俊董
愛知県 一心寺 渡辺亮正
京都府 宗仙寺 細川浩代
京都府 苗秀寺 大谷俊定
大阪府 吉祥院 嶽盛和三
岡山県 洞松寺専門尼僧堂 鈴木聖道
広島県 聖光寺 田中哲彦
広島県 禅昌寺 横山泰賢
高知県 願成寺 伊藤祐司
長崎県 智性院 大久保正元
長崎県 洞禅寺 中村覚道
長崎県 妙本寺 吉谷大憲
大分県 松屋寺 藏山大顕

世界曹洞禅交流会に参加しました

“法衣支援ブース出展”



2024年4月23日、曹洞宗檀信徒会館にて開かれました「世界曹洞禅交流会」に、ブース出展という形で参加いたしました。この交流会は、大本山總持寺太祖瑩山禅師七百回大遠忌の勝縁に合わせ、曹洞宗国際センターが企画したツアーの中の行事として、各国際布教総監部管内から参加されたグループや個人の皆様の交流を図るために企画されました。

23日午後から、大本山總持寺での大遠忌拝登を終えられた各国からの参加者が檀信徒会館に集まり、服部秀世宗務総長導師のもと平和記念大法要が修行され、その後講演会などが催されました。

SZⅠでは、会場に特設ブースを設置し、外国籍僧侶支援事業の“法衣支援”の活動を行いました。本来は、活用されたい方より希望を聞き、ご寄付により集まった法衣類の品物を無償でお届けする事業ですが、この度は参加者に直接手に取っていただき、必要なものを持ち帰っていただくこととし、利用された方には、1月の地震津波で甚大な被害があった能登地方への支援募金のご協力をお願いしました。

お陰様で、多くの品物がそれを必要とされている方々の手に届き、また感謝の言葉をいただきました。そして能登支援募金には多くのご賛同をいただき、194,500円の募金が集まりました。集まった募金の全額は、宗務庁災害義援金を通して被災地支援に活用されます。

私共SZⅠスタッフの多くが元国際布教師であるため、この度は久しぶりの再会が多くあり、近況報告や思い出話に花の咲く交流会参加となりました。

合掌



2025年 SOTO禅インターナショナル 定例総会・講演会のお知らせ

日 程／2025年2月13日(木)

15時より 定例総会
16時(総会後)より 講演(予定)
講演会後 懇親会(予定)

会 場／檀信徒会館(東京グランドホテル) 4F 芙蓉の間
東京都港区芝2-5-2

※会員の皆様には、別途総会案内を郵送いたしますので、詳細はそちらにてご確認ください。
案内に同封される返信用ハガキにて、出欠のご返信をお願いいたします。

【問い合わせ先】S Z I 事務局(館寺)
E-mail kikotatedera@gmail.com
TEL 022-382-3450(円満寺内)

動 静 報 告 2024年(令和6年)1月～12月

1月18日	会報海外分・総会案内発送作業	事務局
2月27日	役員会	檀信徒会館 梅の間
3月4日	定例総会・懇親会	檀信徒会館 桜の間
3月	会報短信編集・発送作業	事務局
3月	イタリア・普伝寺40周年行事	普伝寺
4月23日	世界曹洞禅交流会	檀信徒会館
7月1日	役員会	檀信徒会館 梅の間
9月	ブラジル・禅光寺50周年行事	禅光寺
9月6日	両大本山ワークショップ仏教講演会	大本山總持寺
9月7日	両大本山ワークショップ仏教講演会	大本山永平寺
10月	駒形宗彦・前ハワイ国際布教総監本葬儀	両大本山ハワイ別院正法寺
10月	アメリカ・桑港寺90周年行事	桑港寺
11月12日	役員会	檀信徒会館 萩の間
11～12月	会報編集	事務局

※7月に岡山県・洞松寺にて予定しておりました寺院子弟研修は、諸事情により中止となりました。